

大切なのはお互いのバランス



「男女平等」ではなく「男女共同参画」社会が目指すのは、男性と女性がそれぞれの性差に関わらずお互いの可能性を広げることができる、暮らしやすい社会です。

職場や地域、家庭などで、男性の多い世界に女性が入ることもあれば、その反対もあります。

お互いの可能性を広げ、暮らしやすい社会とするためには、男性も女性も、決定したものに参加するのではなく、企画や立案の段階から積極的に関わる（参画する）

ことが大切です。

市は、各種計画などをつくるにき、市民の皆さんの声を聞く審議会を開いています。

審議会の女性委員の登用率は約36%（平成23年）で、道内の平均を約8%上回っています。市は、登用率さらに高める（40%以上）ことを目標としています。

男性と女性が意見を交わし、理解することが、お互いにとってバランスのとれた、暮らしやすい社会づくりにつながります。

男女共同参画社会のイメージ

職場に活気

- 男女がともに政策や方針の決定過程に参画
- 多様な人材が活躍
- 経済活動の創造性が増し生産性が向上
- 動きやすい職場環境
- 個人が能力を最大限に発揮

家庭生活の充実

- 家族が互いに尊重し、協力し合う
- パートナーシップ強化
- 仕事と家庭の両立を支援する環境整備
- 男性の家庭への参画
- 男女がともに子育てや教育に参加

地域力の向上

- 男女が主体的に地域活動やボランティアなどに参画
- 地域コミュニティの強化
- 地域活性化
- 子どもが伸びやかに育つ生活環境が実現

仕事、家庭、地域生活などの場で、さまざまな活動を自らに合った形で行う

男女がともに夢や希望を実現できる

ひとりひとりが豊かな人生を

interview 2

「しげゆきせんせい、またあした」と、元気よく声をかけてくる子どもをやさしく見送る井上保育士。昨年、市の保育士に採用され、現在は5歳児クラスの担任として3人の先輩とともに34人の子どもを預かります。

「高校生のときに保育を手伝ったことがきっかけで『子どもと直接ふれあう職に就きたい』と考え、保育士を目指しました。『男性だから』などということはまったく気にせず、目標に向かって自分の道を進みました」と振り返ります。

「保育の現場は女性がほとんどですが、男女それぞれの持ち味があるので、お互いの活躍する場があります。また、子どもにとっても男女両方の保育士がいたほうが良いと思います」と話す井上保育士。2年目を迎え、夢をかなえて楽しく充実した日々を過ごす中に、大切な子どもを預かることへの責任の重さを感じています。

「子どもと接するときには『男の子だから泣かないの、女の子だから…』などと言わないように心がけています。自分自身がやりたいことがあれば男女を意識せず、自信を持ってその道を進んでほしいですね」と明るいまなざしで語ります。

男女を意識せず自身の選んだ道を



保育士（末広保育所勤務）井上 重幸
※市職員として初の男性保育士

